

〔特別企画1〕 第1部

400mL 献血向上の取り組み

早坂 勤, 横山裕志, 浦野慎一, 会川勝彦, 豊田尚志, 峯岸正好, 清水 博

日本赤十字社東北ブロック血液センター

三戸 孝, 菊池 望, 猪野 健, 大場保巳, 高嶋和弘, 高橋直人, 大友裕志, 金子健一

東北ブロック献血推進部会

【はじめに】

東北地方は、縦に長い特徴的な地形で、面積約6.7万km²に、約900万人が暮らしている。

面積が広く、人口密度が低く、人口減少と高齢化が先進し、冬季の気象が厳しいという地勢学的特色があり、献血を推進する上で多くの難題を抱えている地域である（表1）。

400mL献血についても長い間70%代の低い比率で、また、血液製剤を他ブロックからの受入れに依存してきた。

そこで400mL献血率と稼働率を向上させ安定供給確保を高めるべく、東日本大震災の影響が落ち着き始めた平成25年11月から、400mL献血率90%以上、移動採血1稼働あたり45名以上の確保を目標に「9045ACTION東北」を開始。28年度より、400mL献血率95%とした「9545ACTION東北」を展開している。

【方 法】

東北ブロック血液センターおよび各地域センターの献血・推進課長で構成する「献血推進部会」を発足。これを平成25年度から毎月1回開催し、献血推進について協議を続けている。

先行する中四国ブロックの「実施調査」を参考

に、平成26年度は各センターの移動採血を主体に「献血推進支援調査」を実施し、渉外活動の活性化に取り組んだ。

採血効率を高めるには、移動採血のみならず、固定施設を安定させることも重要になる。

その上で、地道な渉外活動による移動採血の効率化を目指そうと、平成27年度は固定施設の職員への接遇研修や渉外担当者研修会を開催。

さらに、東北ブロック内の各血液センター職員間での情報共有を高めるために、BSHガルーンによる採血状況等の情報提供を積極的に行っている。

また、記念品に頼る献血推進から脱却するとともに経費削減を図ろうと、スケールメリットを活かした記念品や飲料の統一化も進め、27年度は2千万円の処遇品費削減を達成した。

さらに、一層の安定供給確保を図るため、各センターの実献血者数に対する一定の割合を確保目標とした複数回献血クラブ会員目標人数を設定するなど、中・長期的的的な確保体制を確立しようと、ブロッカー丸となって対策を講じている。

【結 果】

広域事業運営体制がスタートした24年度の

表1 東北各県の面積、人口密度、人口増減率、高齢化率における全国順位

面 積	2位：岩手	3位：福島	6位：秋田	8位：青森	9位：山形	16位：宮城
人 口 密 度	19位：宮城	40位：福島	41位：青森	42位：山形	45位：秋田	46位：岩手
人口増減率	10位：宮城	41位：岩手	43位：山形	44位：青森	46位：福島	47位：秋田
高 齢 化 率	1位：秋田	7位：山形	10位：岩手	16位：青森	24位：福島	41位：宮城

400mL率は77.3%であったが徐々に上昇し、28年度は恒常的に95%以上(表2)となった。併せて400mL献血者数もとくに固定施設で顕著に上昇している(表3)。

固定施設における必要な採血種別の献血者確保増加に伴い、移動採血を大幅に削減できるようになり(表4)、ほとんどの血液製剤を東北ブロック管内で賄えるようになった。

【今後の課題】

東北地方は、移動採血による高等学校献血が盛んで、多くの200mL献血を受入れてきた。

しかし、近年は400mL献血主体で受入れるケ

ースが多くなり、高校生献血者の減少に併せ10代の献血が低下してきた。東北特有の地勢学的条件の中で、如何に採血効率を高めながら「献血推進2020」を達成するかが、今後の大きな課題である。

ブロック内の連携をより一層高め一丸となつて、これからの献血推進に取り組んでいきたい。そのポイントは、密度の濃いた確な情報に基づく「戦略」および「靴底を減らす日々の活動」によると考える。

参考文献 (総務省統計局「日本の統計2016」)(平成27年国勢調査)(平成27年高齢社会白書)

表2 東北ブロックにおける400mL献血率

年 度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (4月～8月)
400mL献血率	77.3%	80.7%	90.6%	94.5%	95.9%

表3 東北ブロックにおける400mL献血者数

400mL献血者数	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
固定施設	50,943人	54,426人	60,416人	63,127人
移動採血	164,962人	170,607人	176,221人	172,315人
合 計	215,905人	225,033人	236,637人	235,442人

表4 東北ブロックにおける移動採血の配車台数

配車台数	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	5,590台	5,605台	5,249台	4,971台